



平成 22 年 3 月 11 日

各 位

会 社 名 株式会社ダイフク
本店所在地 大阪市西淀川区御幣島 3 - 2 - 1 1
代 表 者 名 代表取締役社長 北條 正樹
(コード番号 6383 東証・大証1部)

中国現地法人の再編について

(株)ダイフク(本社:大阪市西淀川区)は、中国において拡大する搬送・保管・仕分けなどのマテリアルハンドリングシステムの需要を取り込むため、4月1日より新会社「大福(中国)有限公司」(以下、DCL)を中核とする新体制を構築し、ダイフクグループが営む全ての事業において受注拡大を図ります。事業や地域別に営業活動してきた中国の現地法人6社を再編し、安定的な経営基盤を作り、経済環境の変化にフレキシブルに対応できる企業集団を目指します。

ダイフクグループは、2002年に一般製造業や流通業界向けの保管・搬送・仕分け・ピッキングシステムを販売する「大福自動化物流設備(上海)」(同DSL)を設立以来、自動車生産ライン向け搬送システムの販売会社「大福自動輸送機(天津)」(2003年、同DAT)と「大福自動輸送機(広州)」(2004年、同DAG)を、2005年には自動車生産ライン向け搬送システムを製造する「江蘇大福日新自動輸送機」(同DRA)および洗車機製造の「大福洗車設備(上海)」(同DCS)を設立する一方、子会社のコンテックも1990年に「上海康泰克電子技術」(同SHC)などを設立してきました。また、2008年には中国現法統括本部を上海に設置し、コンテックグループも含めた中国での事業強化、最適化を推進してきました。

このたびの中国現地法人の組織再編のスキームでは、まずDSLにDAT・DAGを吸収合併し、DCLに社名変更後、DRAおよびDCS(SHCと合併)をDCLの子会社として組織再編します。(参考:「組織再編のスキーム」)

今回の組織再編は、これまで投入、育んできた経営資源(ヒト・モノ・カネ・情報)を集約し、再配分することで最大限に活用していく計画で、

営業、サービス:「大福」ブランド力の向上を図る

生産:生産比率の拡大、統轄機能や調達の横断的機能の強化による競争力の増強

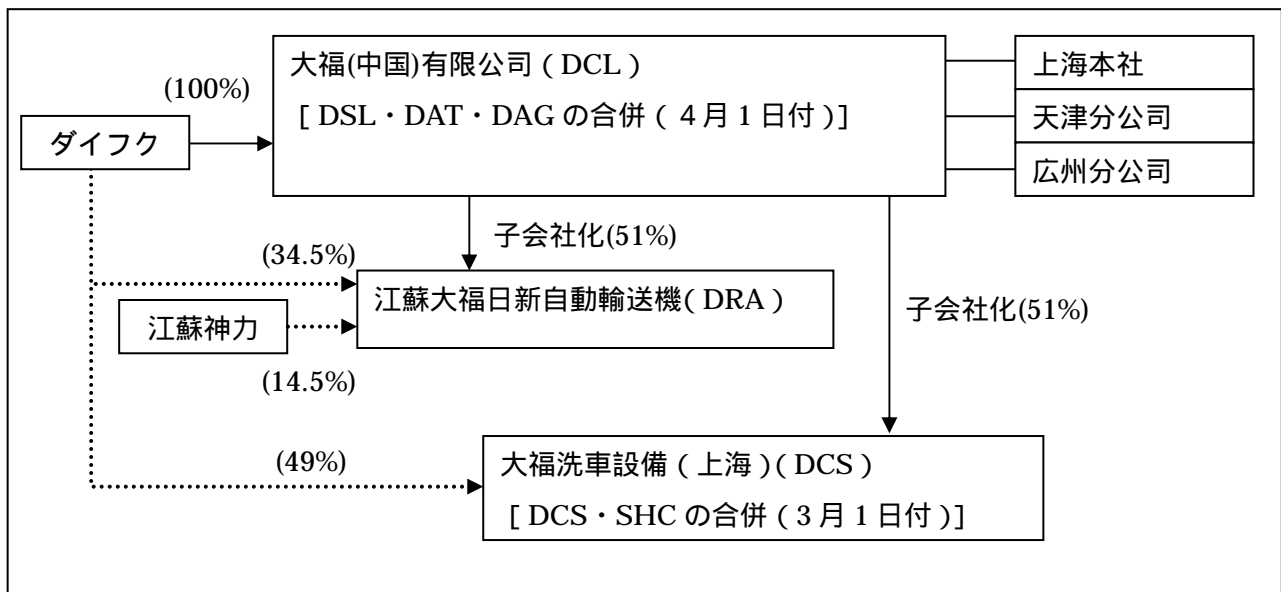
管理:機動的な財務運用、業務効率アップ

を図ります。

2010年4月にスタートするダイフクグループの新中期3カ年経営計画「Material Handling and Beyond」(2010年4月～2013年3月)において、中国を海外最大の市場と位置付け、グループ挙げて3年後の2013年3月期に連結売上高で150億円、5年後には同200億円を目指します。

【組織再編のスキーム】

()内は出資比率



新会社「大福(中国)有限公司」概要

英語表記 = Daifuku (China) Co., Ltd.

- ・本店：上海市長寧区
- ・董事長：藤木勝敏（ふじき・かつとし）
（株）ダイフク取締役中国現法統括本部長（4月1日付けで常務取締役就任予定）
- ・資本金：15億円
- ・従業員：220名（DCS等の子会社化後、約600名）
- ・主な拠点：上海、北京、天津、広州、重慶、福州、武漢、蘇州、深セン

以上

問い合わせ先：広報部 田中/笹川 TEL：03-3456-2243（ダイヤルイン）